

日経新聞33面

2013. 4. 10

福岡県が有機EL開発拠点

福岡県は9日、生産コストを従来比で約10分の1に低減できる有機ELの次世代技術の一部を2015年に実用化する方針を明らかにした。このほど稼働した開発拠点で九州大学や民間企業と共同で取り組む。九州発の新技术を基に地元企業の

希少金属使わず「緑色発光」生産

育成や関連産業の誘致につなげる考えだ。同県などが開発するのは高価なレアメタル（希少金属）を使わずに有機ELを生産する技術。まず、緑色発光する有機ELを15年に実用化する計画。残る青色と赤色については、さらに数年後の

次世代技術、15年に実用化

実用化を目指す。開発を推進するため、同県は約9億円を投じ、新たな研究開発拠点「有機光エレクトロニクス実用化開発センター」（福岡市西区）を整備。今月1日に稼働した。同センターでは試作品の製造のほか、製品の寿命や耐久性などの性能を評価する。